

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】平成 18 年 10 月 26 日 (2006.10.26)

【公開番号】特開 2006-55241 (P2006-55241A)  
【公開日】平成 18 年 3 月 2 日 (2006.3.2)  
【年通号数】公開・登録公報 2006-009  
【出願番号】特願 2004-237926 (P2004-237926)  
【国際特許分類】

**A 6 1 B 8/08 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 B 8/08

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 9 月 7 日 (2006.9.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

超音波を用いて撮影された被検体の B モード像とティシューペロシティ像の合成画像を表示する超音波画像表示方法であって、

B モード像の輝度の増加に応じて B モード像の重みを減少させるとともにティシューペロシティ像の重みを増加させ、

重み付けされた B モード像とティシューペロシティ像を加算し、

加算によって得られた画像を表示する、

ことを特徴とする超音波画像表示方法。

【請求項 2】

前記重みの変化特性が B モード像の輝度の 1 次関数である、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の超音波画像表示方法。

【請求項 3】

前記 1 次関数が折れ線関数である、

ことを特徴とする請求項 2 に記載の超音波画像表示方法。

【請求項 4】

前記折れ線関数が複数の 1 次関数のつなぎ合わせである、

ことを特徴とする請求項 3 に記載の超音波画像表示方法。

【請求項 5】

前記複数の 1 次関数のつなぎ目が可変である、

ことを特徴とする請求項 4 に記載の超音波画像表示方法。

【請求項 6】

前記複数の 1 次関数の傾斜が可変である、

ことを特徴とする請求項 4 または請求項 5 に記載の超音波画像表示方法。

【請求項 7】

前記重みの変化特性が B モード像の輝度の 2 次以上の高次関数である、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の超音波画像表示方法。

【請求項 8】

B モード像の輝度が予め定められた閾値に満たない部分について前記 B モード像および前記ティシューペロシティ像を黒抜きの画像とする、

ことを特徴とする請求項 1 ないし請求項 7 のうちのいずれか 1 つに記載の超音波画像表示方法。

【請求項 9】

前記閾値が可変である、

ことを特徴とする請求項 8 に記載の超音波画像表示方法。

【請求項 10】

超音波を用いて被検体の B モード像とティシューペロシティ像を撮影し、これら 2 種類の像の合成画像を表示する超音波診断装置であって、

B モード像の輝度の増加に応じて B モード像の重みを減少させるとともにティシューペロシティ像の重みを増加させる重み調節手段と、

重み付けされた B モード像とティシューペロシティ像を加算する加算手段と、

加算によって得られた画像を表示する表示手段と、

を具備することを特徴とする超音波診断装置。

【請求項 11】

前記重みの変化特性が B モード像の輝度の 1 次関数である、

ことを特徴とする請求項 10 に記載の超音波診断装置。

【請求項 12】

前記 1 次関数が折れ線関数である、

ことを特徴とする請求項 11 に記載の超音波診断装置。

【請求項 13】

前記折れ線関数が複数の 1 次関数のつなぎ合わせである、

ことを特徴とする請求項 12 に記載の超音波診断装置。

【請求項 14】

前記複数の 1 次関数のつなぎ目が可変である、

ことを特徴とする請求項 13 に記載の超音波診断装置。

【請求項 15】

前記複数の 1 次関数の傾斜が可変である、

ことを特徴とする請求項 13 または請求項 14 に記載の超音波診断装置。

【請求項 16】

前記重みの変化特性が B モード像の輝度の 2 次以上の高次関数である、

ことを特徴とする請求項 10 に記載の超音波診断装置。

【請求項 17】

B モード像の輝度が予め定められた閾値に満たない部分について前記 B モード像および前記ティシューペロシティ像を黒抜けの画像とする黒抜き手段、

を具備することを特徴とする請求項 10 ないし請求項 16 のうちのいずれか 1 つに記載の超音波診断装置。

【請求項 18】

前記閾値が可変である、

ことを特徴とする請求項 17 に記載の超音波診断装置。